

～ 共感する～

symPaThy

Miyazaki Physical Therapy Association

VOL. 12

Contents

① 第21回 宮崎県理学療法学会



② 第1回 介護予防キャラバンin西都



③ 生涯学習委員会 研修レポート



第21回宮崎県理学療法学会

～宮崎県理学療法学会を終えて～

学会を終えて

第21回 学会長 押川 信昭(川越整形外科)

去る、平成25年11月30日(日)、第21回宮崎県理学療法学会(テーマ:創造的理学療法 ～今一人ひとりのブラッシュアップを～)を南部ブロック主管のもと日南市文化センターにて開催し無事に終了することができました。これもひとえに、ご後援・ご協賛いただいた宮崎県・日南市をはじめ各団体・各企業の皆様及び宮崎県理学療法士会員の皆様、当日参加していただきました皆様のおかげと厚くお礼申し上げます。特に、演題募集に関しては、本当に多くの皆様のご支援を頂きとても感謝しております。おかげさまで、21演題(口述15演題・ポスター6演題)の応募があり、230名超の学会参加を頂き、何とか役割を果たすことができたのではないかと感じております。

特別講演では、山崎勉先生に半世紀以上のリハビリ業務における創造的理学療法に関する考えを熱く語っていただきました。若手からベテランの方まで心に残る内容であったのではないかと思います。(山崎先生の講演を聞きたいという事で、福岡からの参加者もいました。)

今回、役員を決めたあと、私自身が学会長の大役を引き受けていいのであろうか?果たして上手く準備委員をまとめることができるのであろうか?等々、心配がつきませんでした。しかし、引き受けた以上はしっかりとやり遂げなければならないという強い使命感を胸に刻み一年間頑張ってまいりました。準備にあたっては、細かな失敗はたくさんありました。しかし失敗を皆でカバーしあうことで皆の絆がより深くなっていった気がします。当日も、南部ブロック全会員数の8割の方が当日の運営に協力して頂き、他からの協力を最小限にとどめ、当日の運営をおこなう事ができました。南部ブロック会員の皆様、約一年間に亘り一生懸命に学会準備に協力を頂き、本当にありがとうございました。

今後も、学会運営で培われた絆を、次のブロック活動に繋げていかなければいけないと強く感じております。

次回開催予定の都城ブロックの方は、今後準備等で大変だと思います。協力できることは、できる限り致しますので、遠慮なく相談下さい。





学会を終えて

準備委員長 井上 貴志(日南市立中部病院)

多数の会員の皆様のご参加とご協賛いただいた施設・企業の皆様のご協力を得て、無事に開催することができました。

参加いただいた会員の皆様、ならびにご助言いただきました(一社)宮崎県理学療法士会学術局の皆様、前学会の西諸ブロックの皆様、また事前準備から学会中もいろいろと奔走いただきました学会準備委員会の皆様に厚くお礼申し上げます。

県内6ブロック中会員数は最も少なく、学会準備・運営に不安はありましたが、一人一人がしっかりと責任を持って役割を果たしてくれました。少ないからこそ「チーム南部ブロック」としてブロック会員の絆がより深いものとなりましたし、初めて学会運営に携わる会員も多く貴重な経験ができたと思います。

準備委員長としての大役は予想通り大変なものでした。過去20回の学会準備委員の先輩方に敬意を表するとともに、22回学会が今年以上に盛況な大会となることを祈念いたします。



学会を終えて

副準備委員長 阿久根大輔(吾社クリニック)

南部のブロック会員と共に約1年間の準備を経て、当日は200名を超える方に参加していただき、幸せに感じております。

南部のブロック会員は、他の地域に比べ会員数が少なく、前回の学会を経験していないメンバーが多い中で、それぞれ与えられる業務が多かったにもかかわらず、一人一人が責任を持って業務遂行していけました。少ないからこそその一致団結が成し遂げられ、成功に導いたのではないかと思います。

私個人としましては、副準備委員長として立ち会えたことは非常に嬉しいことではありますが、その反面、自分の力不足を痛感する機会でもありました。今後は、様々な場面で積極的に行動し、次回の南部ブロックでの学会では自分たちが中心を担えるように精進していきたいと思っております。

今学会の準備や運営は南部ブロックの会員の交流や親睦を図る非常に良い機会でもありました。ここで築いた関係をさらに強固にし、今後は様々な研修会や地域に向けた企画等を行っていただけると考えております。

今後も宮崎県理学療法士会の発展に寄与していき、理学療法士が南那珂地域を盛り上げていきたいと思っております。

学会を終えて

事務局長 平元 之喜(春光会東病院)

元々、南部ブロックの会計に携わっていた流れで、今回、初めて学会の事務局長を経験させていただきました。日々の業務が終わってから学会の作業を行わないといけなため、県士会の運営や歴代の学会運営をなされた会員の皆様のたいへんさが身にしみてわかりました。私自身、初めて運営という仕事に携わり、当初は不安しかなく、失敗することもありましたが、各委員長の助けもあり、事務局長をこなすことができました。何より学会運営に携わったスタッフの方々のがんばりに正直びっくりしたと同時に頼もしく思いました。少ない人数でも「一致団結すれば出来ない事はない」と改めて感じた学会でした。

最後に、学会運営に携わったスタッフの方々、この学会を機に力を合わせて、南部ブロックを発展していきましょう。そして、学会に参加して下さった皆様ならびに協賛・広告をいただいた施設様や機器展示をしていただいた企業様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

学会を終えて

運営局長 高橋 能久(リハステップ郷)

今回、運営局長を務めさせていただきました。準備には過去の学会準備資料が大変参考になり、その中に先輩方の理学療法への思いを感じる事が出来ました。発表する側は理学療法を発展させる事、理学療法士を世間に知っていただく事。準備する側は純粋にそのお手伝いをしたいと、過去20回もそのような学会を続けてきたことで私達は今理学療法士として胸を張って仕事ができることを有難く感じました。そして21回目の学会に、私達ができることを加えて成功させたいと緊張感が高まりました。

約1年かけての準備は正直なところ大変でした。運営の仕事は舞台と人の動きを準備する仕事でしたので、お願いすることが沢山あり頼みにくいこともありましたが、学会長から若手理学療法士まで全員が素早く動いてくれたので大変助けられました。南部ブロックの皆さんと、過去を知り、新しいことにチャレンジした学会準備は貴重な経験になりました。

学会を終えて

学術局長 野川 悟史(川越整形外科)

経験年数も浅く、運営はもちろんこういった学会等に関わる事すら初めての中で、自分の役割を果たせるか不安でしたが、スタッフ皆様の協力の下、助けられながら無事に学会を終了できました事に大変感謝しております。

至らない点も多々あり、迷惑をかけてしまった事もありましたが、このような経験をさせて頂いた事で、主催者側の苦勞等も知る事ができて考えが広く持てる様になれた気がします。

自分が経験して困った事や問題になった事を中心に、次学会の運営側に申し送りしたつもりではありますが、そういった経験を無駄にしないよう宮崎県全体で積み重ねていき、今後の発展に繋げていければと思います。





若手会員の意見

黒木 良彦(春光会東病院)

私は、運営スタッフの立場で学会に参加することが初めてで、諸先生方に色々ご迷惑をおかけしたと思いますが、運営に携わることで大変さを身にしみて感じる事ができ、今後の自分の理学療法士としての在り方を改めて考えることができた学会となりました。運営以外に感じたこととしては、学生時代にお世話になった先生との出会いなど懐かしい出会いが多くあり、初心の気持ちを改めて感じる事ができた学会ともなりました。出会いに感謝したいと思います。

若手会員の意見

岸 昌広(松田整形外科医院)

約1年前から学会準備のため、南部ブロック全体で集まり会議を始めました。私は当初駐車場誘導の係でしたが、運営委員長より「ステージ設営の責任者になってくれ」と言われ、詳しい仕事内容も把握しないまま承諾しました。しかし、実際に必要な準備や仕事内容を把握していくうちに、非常に重要で失敗できない役であることを徐々に痛感していきました。

いざ本番となり小さなミスはありましたが、どうにか学会が終了し、緊張から解けた私は「達成感」と、無事に終わって良かったという「安堵」が少しずつ広がっていきました。

ステージ設営は、大道具係のようにステージを作るだけの仕事と思っていました。しかし実際の仕事内容は当日のタイムスケジュールをすべて把握し、司会進行と常に連絡を取り合い、舞台袖でスタンバイをして、特別講義や一般演題の方々に対して円滑に不安なく発表を行ってもらう「歯車の一部」であったことを学会が終わって実感しました。

次回の学会を準備される皆様、今まで以上の成功となることを心より祈っております。

介護予防キャラバンin西都

テーマ

いつまでも生き生き はつらつ介護予防

宮崎県で初めての本格的な介護予防の取り組みとして、平成26年7月13日(日)に西都市民会館を会場として腰痛予防の講演や介護予防体操の実演会、ならびに個別相談を実施しました。総参加数150名でした。

当日は西都市副市長よりお祝いのあいさつもいただき、行政関係者(地域包括支援センターや介護予防係)の参加も見られました。

個別相談では専門領域のスタッフが対応し、アドバイスを実施しました。参加者全員の握力測定なども実施し、平均値などと比較を行いました。

今回、一般の参加者は少なかった(45名)のですが、今後につながるイベントになったと確信しています。

社会局担当理事 小川 哲史



生涯学習委員会

研修レポート

平成26年度 教育管理研究部会 研修会報告

第1回臨床実習指導者研修会

テーマ: クリニカルクラークシップ (CCS) による
臨床実習指導の実際～現場指導の実例と実践方法～

講師: 中川 法一 先生 (大和大学教授)
日時: 平成26年7月6日 (日)
会場: 宮崎リハビリテーション学院
受講者数: 35名



第2回臨床実習指導者研修会

テーマ: 臨床実習における学生指導の方法論

講師: 塩塚 順 先生 (虹が丘病院リハビリテーション室長)
日時: 平成26年8月31日 (日)
会場: 宮崎リハビリテーション学院
受講者数: 24名



教育管理研究部会では、平成26年度は臨床実習における学生指導に関する研修会を2回実施しました。臨床実習を取り巻く環境が変化していく中で、学生指導の内容もその変化に則していく必要があります。そこで今年度の研修では、クリニカルクラークシップや学生の特性に合わせた指導方法など、柔軟で質の高い実習指導の在り方を学びました。また新しい試みとしてワークショップを実施し、事例検討や具体的な指導の方法などの情報交換を行い、活発な意見が交わされました。今後は卒後教育も視野に入れた研修内容を検討し、教育のシームレス化と臨床へのソフトランディングが可能になるよう、充実したものにしていきたいと考えていますので、ぜひ積極的な参加をお願いします。

教育管理研究部会 部長 大寺 健一郎

平成26年度 運動器研究部会研修会 報告

テーマ：「運動器疾患に対する治療とは」～肩関節機能障害に対する評価と治療～

日 時：平成26年7月26日（土）・27日（日）
会 場：宮元整形外科医院

講 師：市川 和人 先生（医療法人大生会 伊藤整形外科）
参 加 者：38名

平成26年度の当部会研修会を上記の日程にて、参加者38名で開催しました。

市川先生には、肩関節に関する知見や技術だけではなく、理学療法に対する取り組み方の姿勢まで、臨床に直結するご講話を頂きました。

肩関節の評価では、機能解剖や基礎・応用研究などをベースに、得られた結果を検証し治療につなげていく過程を、実技を通して分かりやすくご説明いただきました。実技では、身体の使い方やハンドリングを参加者一人一人に丁寧に指導していただき、対する参加者も積極的に質問し臨床につなげようと熱心な態度を見せていました。

臨床において、専門知識・技術的側面が過剰に強調される傾向があるため、我々は患者の価値観をないがしろにした原因追及という一方的な治療展開を行ってしまうことがあります。それでは対象者の持つ問題点を把握できず適切な治療が選択できず、結果が得られないことを多く経験します。市川先生は、まずは対象者に寄り添い、問題やその「人」を理解した上で、現状を徹底的に検証していくことに重きを置き、クリニカルリーズニングスキルや思考・意思決定技術を向上していくことの大切さをご助言いただきました。

講義終了後、先生より「受講者の皆様も熱心で、すごくパワーを感じました。」と感想をいただきました。先生の熱意は我々への励みであり、それに応えた参加者の態度が、先生の感想につなが

たと考えると、非常に良い研修会になったとスタッフ一同、嬉しく思います。

当部会では、今後も臨床に生かせるような企画を計画していきます。また、学術にも積極的に取り組めるような企画をしてみたいと考えています。皆様の多くの参加をお待ちしております。

運動器理学療法研究部会 部長 矢野 剛士



平成26年度 基礎理学療法研究部会 研修会報告

テーマ1：「医療系研究論文の読み方・まとめ方、統計解析、正しい統計的判断」

講 師：弘前大学 医学部保健学科 対馬 栄輝 先生
日 時：平成26年8月23日（土）

会 場：藤元総合病院 ローズホール
受講者数：30名

テーマ2：「股関節運動機能障害に対する評価・治療」

講 師：弘前大学 医学部保健学科 対馬 栄輝 先生
日 時：平成26年8月24日（日）

会 場：藤元総合病院 ローズホール
受講者数：27名

平成26年度基礎理学療法研究会の研修会は、弘前大学の対馬先生をお招きし、2日間で、57名の参加をいただき、2つのテーマに分けて、藤元総合病院で開催いたしました。

対馬先生は、股関節に関する研究やRコマンドの作成を行い、また多数の著書も執筆されており、精力的にさまざま活動を行っています。

研修の内容は、1日目に医療系研究論文の読み方・まとめ方、統計解析、正しい統計判断についてご講演いただきました。実際のデータを提示しながら、どのように統計解析をしていくか、また、どのように判断していくかをわかりやすく解説していただき、とっつきにくい印象のある統計解析が身近に感じられた講演となりました。

2日目には、股関節運動機能障害に対する評価・治療についてご講演いただきました。関節機能に関する基本的な解剖学や運動学を交えながら、研究結果のデータも提示することで、エビデンスに基づく、評価・治療の展開の必要性を改めて感じる事が出来ました。ま

た、臨床推論を行う上での考え方や患者様との関わり方に至るまで、理学療法士としてどのように臨床を進めていくのかも学ぶことができました。2日間ともに、有意義な時間を過ごすことができたと考えています。

今後も当部会では、最先端の基礎研究に関する分野や解剖・生理・力学等に関する分野の研修会を開催し、科学的な根拠に基づく理学療法を提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

基礎理学療法研究部会 豊永 勇樹



平成26年度 物理療法研究部会 研修会報告

物理療法研究部会では、今年度2回の研修会とブロック合同研修会を3会場にて実施いたしました。

第1回研修会では、台風接近に伴い延期になるというハプニングがありました。延期の申し入れを快諾していただき、畿央大学の床本康治先生に【最新物理療法の臨床適応】を24名の参加者で開催することが出来ました。

第2回研修会では、電気王子と言われています、西大和リハビリテーション病院の生野公貴先生をお招きし、【脳卒中片麻痺症例の運動麻痺改善に向けた電気刺激法】を25名の参加者で開催しました。

2つの研修会では、実技講習を踏まえ、最新の物理療法の使用法や効果、治療メカニズムなど多くの事を学び、今までの物理療法の知識を更にupdateできた貴重な研修会となりました。

また、物理療法部会部長の中原寿志先生自ら広報活動も含みながら、【症状・疾患別にみた物理療法手段の選択】というテーマでブロック行脚を精力的に実施しました。

宮崎市郡ブロック・都城ブロック・北部ブロックと県内3ブロックで、計134名の会員にご参加いただき、実技も踏まえ物理療法について講義していただきました。

平成27年度は、大和橿原病院の吉田陽亮先生をお招きして、筋力増強と疼痛緩和にフォーカスを当てた研修会を予定しております。また、ブロック合同研修会は、全6ブロックにて開催予定で、内容も一方的な研修会ではなく、職場で実際に使用している機器を中心に、使用方法の検討・効果判定など会員皆様から「参加しやすい・翌日から実践できる」研修会を目指して、精力的に活動していく予定です。皆さんもぜひご参加下さい。

物理療法研究部会 副部長 石原 伸之



平成25年度 内部障害理学療法研究部会 研修会報告

がんのリハビリテーション研修会報告

平成26年6月29日、埼玉医科大学保健医療学部教授の高倉保幸先生を講師にお招きし、「がんのリハビリテーションセミナー2014-がんのリハビリテーションの基礎的理解と進め方-」をテーマとした研修会を開催致しました。

理学療法士だけではなく、作業療法士・言語聴覚士・看護師と、多職種の92名の方に参加していただきました。本研修会は、がんのリハビリテーションをテーマとした県内で初めての企画であったため、基礎的知識から多くの医療者が臨床の場面で迷うリスク管理の方法やコミュニケーションの仕方についても学んでいきました。

がんのリハビリテーションは、がんそのものや治療に伴う後遺

症や副作用によるさまざまな身体的・心理的障害の軽減を図り、病気になる後生活の質(QOL:クオリティー・オブ・ライフ)を確保していくことを目的としており、現在のがん治療において重要な役割を果たすことが知られています。宮崎県内においても、がんのリハビリテーション分野における医療者側の知識、技術の充実、そして患者さんへの周知が求められています。

そのため当部会では、今後がんのリハビリテーション研修を継続していきながら、宮崎県内での啓蒙、促進を目指していきます。今後も当部会へのご意見、ご要望をお寄せください。

内部障害理学療法研究部会 吉田 裕一郎

第1回内部障害理学療法研究部会「症例検討会」報告

平成26年9月27日、宮崎市医師会病院にて、参加者55名により開催しました。

研修内容は、症例検討会で、宮崎江南病院の永井博規先生から「再入院を繰り返した心不全患者～運動指導と自己管理能力向上について～」、宮崎生協病院の山浦隆寛先生から「認知症高齢者へ在宅酸素療法導入を行った一症例～家族不安軽減に向けた取り組み～」について発表頂いた後、それぞれの困った点やアドバイスをもらいたい点等を提示してもらい参加者でディスカッションを行いました。参加者からも積極的に経験談やアドバイスを頂くことができ、内部障害患者さんの理学療法を進め方や生活指導の実践について理解を深めることができました。

今後、このような企画が日頃の臨床を見つめ直せる場として、更に学術面ではステップアップとして学会等での演題発表などへ導いていける場として、提供していければと考えております。

内部障害理学療法研究部会 新地 達哉

平成25年度 生活環境支援理学療法研究部会 研修会報告

テーマ：「補装具の適用・調整と制度論について」～下肢装具を中心に～

講師：(有)マキタ義肢製作所 義肢装具士 平尾 景造 先生
 期間：平成26年2月9日(日)

会場：宮崎リハビリテーション学院
 受講者数：59名

平成26年2月に生活環境支援理学療法研究部会研修会を上記の日程・場所にて開催させていただきました。

急性期・回復期・生活期におけるそれぞれの装具の役割や現状、問題点や改善策について、またそれぞれの保険制度に応じた装具申請の流れ、方法などを中心に詳しく教えていただきました。

装具は、大きく捉えて治療用装具と更生用装具に分けられ、入院中は「治療」、退院後は「生活」が、主な目的となります。

退院後、生活していくために必要な身体の一部となるものでもなく、装具は介護保険の対象ではありません。そのため、在宅や施設に義肢装具士が直接赴いて、故障の対応や装具の調整など病院のように定期的に充足したメンテナンスを行うのは時間や制度上の問題もあり困難なことが多いというのが現状です。

実際に在宅に伺った際には、衛生上の問題やヘルソックなどが破損している装具を付けている患者様を見ることも少なくありません。

これらの問題を改善していくためにも、退院時に義肢装具士との密な連携を図りながら装具を再検討し、退院後もフォローアップできる環境を整えていくことが重要であるというお話があり、改めてその必要性を感じました。

また、今後は退院後の「生活」に関わるセラピスト、義肢装具士、ケアマネージャー、介護士、看護師などの多職種間において、装具についての知識、理解や情報共有を深めていくことが必要となるのではないかと思います。

私自身、臨床の治療用装具に対して目が向きがちとなり、入院期間よりもはるかに長いはずの退院後の生活に関わる更生用装具について、その重要性を認識できていなかったことに気づかされ、今後の装具に対する視点が大きく変わる大変有意義な研修会となりました。

参加された会員の方々にとっても、今回の研修会で再度装具について考える良い機会となったのではないかと思います。

生活環境支援理学療法研究部会では今後も生活に視点を置いた様々な研修会を企画しております。今後もご支援とご協力を宜しくお願いいたします。

生活環境支援理学療法研究部会 宮崎 善隆



平成26年度 第1回生活環境支援研究部会 研修会報告

テーマ：「住宅改修に必要なアセスメントと視点について」～生活に視点をおいたリハビリテーション～

講師：医療法人社団 寿量会 熊本機能病院併設
 訪問看護ステーション 清雅苑 理学療法士 大久保 智明 先生
 期間：平成26年6月22日(日)

会場：宮崎リハビリテーション学院
 受講者数：70名(理学療法士57名 作業療法士13名)

平成26年度第1回生活環境支援理学療法研究部会の研修会は、訪問看護ステーション清雅苑の大久保智明先生をお招きし、宮崎リハビリテーション学院で、会員理学療法士57名、作業療法士13名の計70名の方々の参加を頂き開催いたしました。

研修会の内容は、住宅改修の現状からお話して頂き、住宅改修に必要な視点やアセスメント、そして大久保先生が実際に携った住宅改修の事例を動画にて見せて頂きました。住宅改修の検討は、退院2～3週間前から始まっており、その際には現地訪問で出来るだけ多くの職種がそれぞれの視点で介入した方がよいとの事でした。住宅訪問前の準備として、家屋情報の収集や本人・家族の意向、身体機能、介護力や経済状況、生活様式を把握しておく必要があり、最低限の生活機能障害に対する支援プロセスとしては、「食べる」「寝る」「トイレ動作」が特に重要であり、本人の意識・意向を基に評価するとの事でした。

対象者の生活スタイルを考えて自宅内のどこを中心に一日を過ごすかを重要視する必要があり、本人と家族が具体的な生活像を描いていることも大切になるそうです。そして住宅改修をやりっぱなしにせ

ずに定期的な評価も行いながら、「現実的に自発的な活動が行われているのか」「その人らしい生活が営まれているのか」を評価し、ときには「仕掛けていくことも必要である」という話に在宅リハビリの奥深さを実感しました。

これからも生活環境支援理学療法研究部会では、生活に視点を置いた様々な研修会を企画しております。会員の皆様には、当部会へのご意見等もお寄せ頂きながら、今後も当部会活動へのご支援とご協力を宜しくお願いいたします。

生活環境支援理学療法研究部会 福満 義人



宮崎県理学療法士会ホームページ

http://www.miyazaki-pta.com

宮崎県理学療法士会 検索

新着情報や学会のお知らせなど役立つ情報満載!!
是非、お役立て下さい。

一般社団法人
宮崎県理学療法士会
Miyazaki Physical Therapy Association All right reserved.

HOME 一般の方 会員の方 関連リンク お問い合わせ

このサイトでは、宮崎県理学療法士会の活動や
理学療法に関する情報を掲載しています。

宮崎県理学療法士会について
About

- 会長挨拶
- 理学療法士 (PT) とは
- 理学療法士になるには
- 宮崎県の理学療法士がいる施設
- 広報紙 symPaThy
- 理事長・役員

会員の方へ
Members

- 会費のご案内
- PTお役立ちリンク

宮崎お知らせ
Information

- 新人研修
- 研修会・講習会
- 学会
- 県士会ブロック

関連リンク
Link

- 関連リンク
- 診療・介護情報について

お問い合わせ
Contact

宮崎県理学療法士会へのお問い合わせは
こちらまでお願いいたします。

一般社団法人
宮崎県理学療法士会事務局
〒880-0032
宮崎市東区2丁目62-2
TEL (0985) 34-9120
FAX (0985) 34-9119

新着内容

- H26.1.17 理学療法士会から、理学療法士を募集しました。募集要項はこちらをご覧ください。
- H26.1.10 平成26年度新人研修プログラムの開催です。参加費は理学療法士会から負担いたします。お申し込みは、こちらをご覧ください。
- H25.12.27 平成25年度新人研修プログラムの第1期を完了しました。卒業生は理学療法士会から推薦状をいただきます。
- H24.5.12 宮崎県理学療法士会を全面リニューアルしました。

会員の方へ (協会・委員会からのお知らせ)

- 事務局より毎月4.0円 (計) 宮崎県理学療法士会 会費のお知らせがあります。

新人研修のご案内

- 平成25年度新人研修プログラム
- 新人研修プログラム (神経理学療法・長崎市ブロック共催)

県士会ブロックからのお知らせ

- 北ブロックよりお知らせがあります
- 長崎市ブロックよりお知らせがあります
- 北ブロックよりお知らせがあります

学会のご案内

- ◆ 第48回 日本理学療法学会大会
- ◆ 第48回 全国理学療法大会
- ◆ 第35回 九州PT・OT合同学会
- ◆ 第2.0回 宮崎県理学療法学会
- ◆ 第1.0回 日本神経理学療法学会学術集会

研修会・講習会のご案内

- H26.1.19 Physical Examinationから臨床検査技師における理学療法士職能を高める
- H25.3.1~2.0 訓練と運動～認知神経リハビリテーション九州合同勉強会～
- H25.2.1~2.0 運動器疾患における骨格理解と治療実践～運動器結合部位を用いた運動療法の選択～
- H25.2.9 福祉員の資格・調整と制度について～下肢装具を中心に～

HOME 一般の方 会員の方 関連リンク お問い合わせ

このホームページに掲載しているファイルをご覧になるには、以下の閲覧用ソフトが必要になります。
詳しくは、[ブラウザのダウンロード](#)をご覧ください。
Javaソフトウェアについては、[こちら](#)からダウンロード出来ます。

Copyright © 2013-2014 宮崎県理学療法士会 All Right Reserved.

発行日: 2015年3月27日 (通算74号) 発行人: 一般社団法人 宮崎県理学療法士会 〒880-0032 宮崎市霧島2丁目62-2
代表: 中田 洋輔 編集: 伊藤 和彦 印刷: 愛文社 株式会社

編集後記

近頃、「〇活」という言葉をよく目にします。最近では、「終活」という言葉を目にする機会が多くなったように感じます。ウィキペディアによれば、「人生の終わりのための活動」の略であり、人間が人生の最期を迎えるにあたって行うべきことを総括したことを意味する言葉」とあります。リハビリテーションの世界で、「がんのリハビリテーション」という概念が少しずつ浸透し始めています。とはいっても、「がん=死」ではなく、心筋梗塞でも脳出血でも同様に起こりうる、死を迎える上でのきっかけのひとつであると個人的に捉えています。厚生労働省による平成23年度の日本における主な死因別死亡数の割合は、「悪性新生物28.5%」・「心疾患15.5%」・「肺炎9.9%」・「脳血管疾患9.9%」・「不慮の事故4.8%」・「老衰4.2%」・「自殺2.3%」・「その他24.9%」の順になっています。

誰であれ、遅かれ早かれ人生の終焉を迎える時期はやってくるわけですが、それぞれでその時の訪れ方は違うでしょう。悔いを残さずにその時を迎えるためにはどうすればよいのか? 「終活」という活動を知ることは、生活を支援する医療従事者として、最新のトピックスなのかもしれません。